
資 料

中学校における障害のある生徒の体育授業に関する研究

—近畿地区の実態調査から—

下村 雅昭¹⁾, 金山 千広²⁾, 山崎 昌廣³⁾

Physical education classes for junior high school students with disabilities—A survey in the Kinki Region

Masaaki Shimomura¹⁾, Chihiro Kanayama²⁾, Masahiro Yamasaki³⁾

The purpose of this study was to investigate the status of physical education classes for junior high school students with disabilities in the Kinki Region of Japan. Valid responses were received from 80 of 200 schools targeted for the survey (collection ratio: 40%).

It was found that in nearly all schools physical education classes for students with disabilities were conducted while maintaining interaction with regular classes. Physical education teachers felt the significance of having students with disabilities participate in regular physical education classes, but did not actively obtain qualifications or information on adapted sports.

The difficulty of practicing team sports, machine exercise, swimming, and martial arts in classes for students with disabilities was confirmed.

I 緒言

近年、特別支援教育のあり方について議論が進み、より広範な対象者において支援の体制が構築されつつある。特に従来から特殊教育の対象となっている障害のみならず、通常学級に在籍する軽度発達障害や高機能自閉症等を有する児童・生徒への支援について強化された(内閣府 2007)。

科目のなかでも体育に関してこのような児童・生徒に対する支援の実践例や事例は数多く報告されている(後藤ら 2001, 大南ら 2004, 寺田ら 2006)。これら先行報告においては授業中の指導方法および最終的な評価について言及されており、貴重な基礎資料となっている。さらに通常学級および障害児童学級の児童らの態度を含めたインクルージョンに言及した研究は各国において報告されてきている(七木田と安井 1998, Block et al. 1995, 1996, Duchane et al. 1998) 特にわが国では長曾我部ら(1996, 2002, 2007)がこの課題についての報告を継続して行っており、教師の対応やマネジメントについても現場に対して示唆を与えている。

このような事例研究においてはアダプテッド・スポーツ(Adapted Sports)の概念が重要視されてきている。これは障害の状態や身体機能、年齢などにとらわれず、ルールや用具を工夫することにより、あらゆる人に適合させたスポーツを展開するといった概念である。平成18年度より日本体育学会においてもアダプテッド・スポーツ科学専門分科会が設立されるなど、その重要性が広く認識されつつある領域である。

アダプテッド・スポーツに関する研究は競技スポーツ、リハビリテーションスポーツ、高齢者や介護予防に関するスポーツなど多くの領域にわたる報告がなされている。(Simomura et al. 2004, 竹内ら 2007)しかし学校教育・体育におけるアダプテッド・スポーツの実施状況や問題点等を明らかにした量的調査が少ない現状にある。特別支援教育の概念がこの科目で機能的に展開されていくためにも現状の詳細な確認を行うことが早急に望まれる。

II 目的

障害のある生徒を対象とした体育授業の実施状況を把握するために近畿地区における中学校を対象とした調査を行い、学校教育におけるアダプテッド・スポーツの現状を確認することを目的とした。

1) 京都女子大学家政学部生活福祉学科

2) 聖和大学短期大学部保育科

3) 広島大学総合科学研究科人間科学部門

表1 都道府県別内訳

	滋賀	京都	兵庫	大阪	奈良	和歌山	合計
中学校 度数	9	15	14	26	10	6	80
(%)	11.25	18.75	17.5	32.5	12.5	7.5	100.0

III 方法

1. 調査対象

近畿地区に設置された在籍生徒数100名以上の中学校200校を対象に郵送法にて実施した。対象校数の配分は近畿地区2府4県の人口比率に応じて各府県の調査数を決定した。さらに府・県庁所在地の人口をもとに大都市の配分を決定し、それ以外は中都市2, 小都市1の割合で振り分けた。選定地域ごとに無作為抽出により調査対象校を決定した。

調査期間は2006年10~11月とした。回答は82校(回収率:41.0%)より得られ、すべての項目について記載を満たしていない回答を除き80校を有効回答(有効回答率:40.0%)とした。府県別の内訳を表1に示す。

2. 調査内容

調査項目は、回答者の属性、体育授業の実施形態、2006年度中に実施または実施予定の種目(学習指導要領に基づく51種目)とした。さらに障害のある生徒の体育授業の目標の重要度について(14項目)、体育授業を実施するにあたっての配慮点や取組み状況(18項目)障害のある生徒が通常の学級で行う体育授業について(8項目)、障害者のスポーツに関する考え(6項目)を加えた。質問項目ごとに「とてもそう思う」から「全くそうは思わない」までの5点リカート尺度で尋ねた。

IV 結果と考察

1. 回答者の属性

回答者の属性の内訳を表2に示した。回答者の45.0%は40歳代であり、約4割は特別支援教育教員であった。特別支援教育コーディネーターの資格を有する者は15.0%、養護学校教諭の資格を有する者は11.3%であったが、障害者スポーツ指導員に関する有資格者は無かった。このような結果から、学校教育の現場においては教育に関する資格は重視されても障害者スポーツやアダプテッド・スポーツに関する資格取得についての関心が著しく低いことが考えられた。障害を持つ生徒のスポーツや運動に関する環境改善を検討するに当たってはこのような資格取得を勧めるとともに、アダプテッド・スポーツの情報収集等を実施することが望まれる。

表2 回答者の属性

属性	項目	中学校	
		度数	(%)
年代	21-30歳	5	6.3
	31-40歳	10	12.5
	41-50歳	36	45.0
	51-60歳	26	32.5
	無回答	3	3.7
	合計	80	100
資格等 (複数 回答)	特別支援教育教員	33	41.3
	体育担当教員	33	41.3
	通常学級の教員	9	11.3
	体育主任	13	16.3
	教務主任	2	2.5
	教頭	4	5.0
	副校長	0	0.0
	校長	1	1.3
特別支援教育コーディネーター	12	15.0	
免許・ 資格 (複数 回答)	高等学校教諭(保健体育)	38	47.5
	中学校教諭(保健体育)	51	63.8
	養護学校教諭	9	11.3
	小学校教諭	8	10.0
	障害者スポーツ指導員	0	0.0
	その他	18	5.0
経験 年数	教員(平均・標準偏差)	21.35	9.68
	特別支援教育(平均・標準偏差)	4.01	5.86

2. 障害のある生徒の学年別・種類別内訳

表3に障害のある生徒を学年・障害種類別にクロス集計した結果を示した。各学年ともに知的障害と情緒障害の占める割合が他の障害に比べて非常に高く、全体の約67%に相当した。「その他」にはLD, ADHDなど発達障害に関するものが多かった。この点に関しては文部科学省の報告(2007)と同様の傾向であった。

視覚障害, 聴覚障害, 病弱および虚弱に関する該当者は全体の2~8%であり, 比較的少数にとどまっていた。

3. 障害のある生徒の体育授業の実施形態

表4に障害のある生徒を対象とした体育授業の実施形態の内訳を示した。「通常学級と合同」「一部通常学級」「全て通常学級」など通常学級と何らかの形で交流を示す学校は全体の70.5%に相当した。この結果から、体育授業に関しては障害を有する生徒が通常学級の生徒と共に授業参加することの重要性が広く認識されているのではないかと考えられた。「その他」と回答した学校は15%程度であったが、「全て障害者学級で実施」と回答した学校は2.6%にとどまった。

表 3 中学校における障害のある児童の学年別・障害種類別内訳

項目		知的	情緒 (自閉)	肢体不自由	視覚	聴覚	病弱・虚弱	その他	障害児合計
1 年	度数	20	18	8	5	3	2	2	58
	(%)	34.48%	31.03%	13.79%	8.62%	5.17%	3.45%	3.45%	100.0%
2 年	度数	24	17	8	5	2	2	1	59
	(%)	40.68%	28.81%	13.56%	8.47%	3.39%	3.39%	1.69%	100.0%
3 年	度数	27	13	13	3	1	1	1	59
	(%)	45.76%	22.03%	22.03%	5.08%	1.69%	1.69%	1.69%	100.0%
障害児合計	度数	71	48	29	13	6	5	4	176
	(%)	40.34%	27.27%	16.48%	7.39%	3.41%	2.84%	2.27%	100.0%

表 4 複数回答を考慮した障害のある児童の体育授業の実施形態

カテゴリー		全て障害児 学級で実施	通常学級と 障害児学級 合同	一部通常 学級	全て 通常学級	その他	複数回答 あり	合計
中学校	度数	2	5	15	35	12	9	78
	(%)	2.6	6.4	19.2	44.9	15.4	11.5	100.0

4. 中学校の体育授業において障害のある生徒が行った種目

2006 年度の体育授業において各校で障害のある生徒が行った種目について表 5 に示した。以下に学習指導要領における運動領域構成ごとに結果を示し、考察する。

1) 基本の運動

障害児学級および通常学級ともに「走運動遊び」「浮く・泳ぐ運動」が比較的多く実施されていた (26.3%, 18.8%, 23.8%, 16.3%)。他の種目の実施状況においても両学級は同様の傾向を示していた。このような結果から、基本の運動は授業への導入が容易であり、障害を有する生徒と他の生徒と合同で行うことについても大きな問題が生じていない可能性が考えられた。

2) ゲーム

障害児学級では「ボール投げゲーム」が多いのに対して (27.5%) 通常学級では「サッカー型ゲーム」の実施校が最も多かった (16.3%)。障害児学級では同種目がわずか 7.5% しか実施されていないことから、障害児学級では下肢でボールを操作するゲームが困難である可能性が考えられた。

3) 体づくり運動

通常学級ではストレッチ (36.3%)、ラジオ体操 (33.8%) が多く実施されていた。しかし障害児学級では通常学級と比べて、種目間に大きな差はみられなかった。障害児学級ではどの種目においても実施校が比較的少なく (7~18%)、運動により身体づくりを促進するという方針が重要視されていないことが考えられた。

4) 器械運動

通常学級では「マット運動」(40.0%)、「跳び箱」(25.0%) が比較的多く実施されていたが、障害児学級ではそれぞれ 12.5%, 5.0% と少なかった。長曾我部 (2007), 安井 (2007) は障害児・者におけるチーム種目導入の困難さについて報告しているが、今回の結果からは、さらにこのような器械運動についても多くの学校で導入がなされていないことが明らかになった。

5) 陸上競技

通常学級ではいずれの種目においても実施している学校が多く (30~62%)、この種目が重要視され尚且つ導入が容易であることが考えられた。しかし障害児学級ではすべての種目で実施校が少なく (5~14%)、器械運動と同様に実施の困難さが考えられた。基本の運動では走運動遊びは障害児学級においても 26.3% 実施されており、「競技」志向が得られにくいことも伺われた。

6) 水泳

通常学級ではどの種目においても実施校が多かったが (41~92%)、障害児学級では著しく低い実施状況であった (1~10%)。これは同種目において実施中の事故の可能性が考慮されて導入が見送られているのではないかと考えられた。

7) ボール運動

通常学級ではサッカー (52.5%)、バスケット (50.0%) が多く行われていたが、障害児学級では比較的 low (10.0%, 8.8%)、「サッカー型ゲーム」の実施が少なかった結果と同様の傾向であると考えられた。

表5 2006年度に実施された種目

領域	種目名	中学校					
		障害児学級		通常学級		両方	
		度数	(%)	度数	(%)	度数	(%)
基本の運動	走運動遊び	21	26.3%	15	18.8%	2	2.5%
	跳運動遊び	12	15.0%	11	13.8%	3	3.8%
	力試し運動遊び	4	15.0%	4	13.8%	1	3.8%
	機械器具を使った運動遊び	7	8.8%	2	2.5%	1	1.3%
	用具操作の運動遊び	5	6.3%	2	2.5%	1	1.3%
	水遊び	15	18.8%	7	8.8%	1	1.3%
	浮く・泳ぐ運動	19	23.8%	13	16.3%	2	2.5%
	表現リズム遊び	9	11.3%	5	6.3%	1	1.3%
	仲間との競争的遊び活動	8	10.0%	6	7.5%	1	1.3%
ゲーム	ボール投げゲーム	22	27.5%	11	13.8%	1	1.3%
	ボールけりゲーム	15	18.8%	6	7.5%	1	1.3%
	鬼遊び	1	1.3%	3	3.8%	0	0.0%
	バスケット型ゲーム	12	15.0%	12	15.0%	0	0.0%
	サッカー型ゲーム	6	7.5%	13	16.3%	1	1.3%
	ベースボール型ゲーム	8	10.0%	6	7.5%	1	1.3%
体づくり運動	ラジオ体操	7	8.8%	27	33.8%	5	6.3%
	リズムに乗った体操	10	12.5%	9	11.3%	2	2.5%
	ストレッチ	14	17.5%	29	36.3%	5	6.3%
	ウォーキング	12	15.0%	1	1.3%	1	1.3%
	ジョギング	13	16.3%	21	26.3%	2	2.5%
	縄跳び	9	11.3%	8	10.0%	2	2.5%
	ボール・輪・棒を使った体操	6	7.5%	7	8.8%	1	1.3%
器械運動	マット運動	10	12.5%	32	40.0%	4	5.0%
	鉄棒	3	3.8%	6	7.5%	1	1.3%
	跳び箱	4	5.0%	20	25.0%	2	2.5%
	平均台	1	1.3%	2	2.5%	0	0.0%
陸上競技	短距離走	11	13.8%	49	61.3%	5	6.3%
	リレー	7	8.8%	37	46.3%	2	2.5%
	長距離走	9	11.3%	41	51.3%	4	5.0%
	ハードル	4	5.0%	24	30.0%	1	1.3%
	走り幅跳び	4	5.0%	37	46.3%	1	1.3%
	走り高跳び	1	1.3%	26	32.5%	0	0.0%
水泳	クロール	8	10.0%	40	50.0%	3	3.8%
	平泳ぎ	7	8.8%	33	41.3%	2	2.5%
	背泳ぎ	1	1.3%	18	22.5%	2	2.5%
ボール運動	サッカー	8	10.0%	42	52.5%	2	2.5%
	バスケット	7	8.8%	40	50.0%	3	3.8%
	ソフトボール	3	3.8%	21	26.3%	2	2.5%
	ソフトバレーボール	2	2.5%	3	3.8%	1	1.3%
	ハンドボール	3	3.8%	9	11.3%	0	0.0%
	バドミントン	3	3.8%	52	65.0%	4	5.0%
	バレーボール	4	5.0%	0	0.0%	0	0.0%
	テニス	19	23.8%	7	8.8%	2	2.5%
卓球	11	13.8%	3	3.8%	1	1.3%	
表現運動	創作的ダンス	1	1.3%	16	20.0%	1	1.3%
	フォークダンス	4	5.0%	5	6.3%	0	0.0%
	リズムダンス	6	7.5%	6	7.5%	2	2.5%
武道	柔道	0	0.0%	16	20.0%	0	0.0%
	空手	0	0.0%	3	3.8%	0	0.0%
	相撲	0	0.0%	2	2.5%	0	0.0%

表 6 体育の授業において重要視されている項目

項目	中学校		
	度数	平均値	標準偏差
運動を好きになること	78	4.67	0.60
運動を楽しめるようになること	78	4.73	0.53
運動を自分で工夫して楽しむ力を養うこと	76	3.64	1.00
友達と仲良くする態度を養うこと	78	4.36	0.74
健康や安全に配慮する態度を養うこと	78	4.18	0.80
体力をつけること	78	4.36	0.74
運動技能を高めること	78	3.17	0.86
肥満予防	77	3.62	1.08
健康の保持増進	78	4.14	0.80
スポーツ観戦を楽しめるようになること	78	3.29	0.94
仲間と協力する態度を養うこと	77	4.21	0.77
生涯(卒業後に)自ら運動に取り組めるようになること	78	4.01	0.81
学外にあるスポーツ施設を活用できるようにすること	78	3.26	0.80
最善を尽くそうとする態度を養うこと	78	3.87	0.96
少人数のため指導しやすい	69	3.06	1.25
児童生徒のペースで授業を行いやすい	69	3.49	1.17
チーム種目を実施しやすい	69	2.52	1.26
子どもたちにとって体育は重要である	74	4.69	0.72
障害の状況に合わせて種目を選択している	73	3.60	1.36
障害の状況に合わせてルールなどの工夫をしている	71	4.04	1.22
障害の状況に合わせて用具などの工夫をしている	71	3.79	1.29
障害の状況に合わせて評価法を工夫している	73	3.84	1.17
体育の授業によって体力が向上している	74	3.78	0.86
体育の授業によって協調性が養われている	74	3.64	0.99
教師などの授業者の数は十分である	72	2.96	1.18
体育用具や教材は十分そろっている	74	3.01	1.14
人数が多く指導しにくい	72	2.06	1.09
子どもたちの障害が多様でゲームができない	71	2.54	1.19
実施できる種目が少ない	72	2.74	1.20
障害児のための指導法がわからない	71	2.54	1.04
評価法がわからない	70	2.51	1.00
体育授業に校外からボランティアなどを導入したい	71	3.01	1.28
健常児が障害を理解するのに有効である	76	4.20	0.83
障害のある子どもが、ほかの子どもとの関係の取り方を学ぶのに有効である	77	4.18	0.85
個別的配慮を行うことから健常児の体育を構成する上でも参考になる	77	3.48	0.85
障害のある子どもが入ることで、授業の内容が豊かになり質も高まる	77	3.04	0.77
障害のある子どものペースで授業ができない	77	3.04	1.11
健常児が体育に満足するのは難しい	76	2.30	0.91
健常児に負担がかかる	77	2.31	0.86
授業を成立させるのは難しい	77	1.99	0.87
障害のある子どもに適したスポーツがわからない	78	2.33	0.82
教師は障害者のスポーツに関する知識が必要である	77	4.26	0.75
障害児者のスポーツに関する情報は十分である	76	2.61	0.99
障害児者のスポーツに関する情報を積極的に入手している	77	2.77	0.87
障害児者のスポーツ指導に関する研修会が必要である	77	3.82	0.85
校外にある体育・スポーツ施設を活用している	76	2.20	1.03

8) 表現運動・武道

創作ダンスは両学級で大きな差がみられた(1.3%, 20.0%) 障害児学級においては武道を実施している学校は無かった。

5. 障害のある生徒の体育授業の目標の重要度

表6に障害のある生徒の体育授業の目標の重要度についての結果を示した。「運動を好きになること」(4.67±0.60点)、「運動を楽しめるようになること」(4.73±0.53点)が重要視されており、「子どもたちにとって体育は重要である」(4.69±0.72点)と考えられていることが分かった。「健全児が障害を理解するのに有効である」(4.20±0.83点)といった回答が多いことから、通常学級と交流が深かった結果の背景となっていると考えられた。このような結果から、障害のある生徒に対する体育授業については積極的に通常学級と同様に支援がなされている一面がうかがえた。

しかし「教師は障害者のスポーツに関する知識が必要である」(4.26±0.75点)としている一方では「障害児者のスポーツに関する情報は十分である」や「障害児者のスポーツに関する情報を積極的に入手している」といった回答は比較的少数であった(2.61±0.99点, 2.77±0.87点)。障害者スポーツ指導員あるいは関連学会等に関する組織との協力体制や情報交換が今後必要となると考えられた。

6. 体育祭・運動会などへの参加状況

図1に障害のある生徒の体育祭や運動会への参加状況に関する結果を示した。ほとんどの学校で、障害のある

生徒の状況をアセスメントしたうえで参加を行っていることが明らかになった。参加している範囲や内容については今回の研究では特定できず、今後の検討課題となった。また、参加した内容と生徒本人の満足度等も十分に調査されるべきである。

7. まとめ

本研究では中学校において障害のある生徒の体育授業の実態を調査した。その結果以下のような点が明らかになった。

- 1) 多くの学校で何らかの形で通常学級との交流が図られていた。
- 2) 通常学級と比較して、チーム種目、器械運動、陸上競技、水泳、武道等の実施が少なかった。
- 3) 障害児学級では運動を好きになったり親しんだりすることが重要視されていた。
- 4) 障害児者スポーツの情報は十分ではないが、情報取得に対しては積極的に対処はなされていなかった。
- 5) 体育祭等でも他の生徒と同様に積極的に参加をしていた。
- 6) 障害児者スポーツに関する情報や資格取得のための方策を改善する必要性が考えられた。

付記：本調査は、平成18～20年度日本学術振興会、科学研究費補助金(基盤研究(B))課題番号18300211、研究代表者：山崎昌廣の一部として行なわれた。アンケートにご協力いただいた中学校の関係者の皆様に感謝申し上げます。

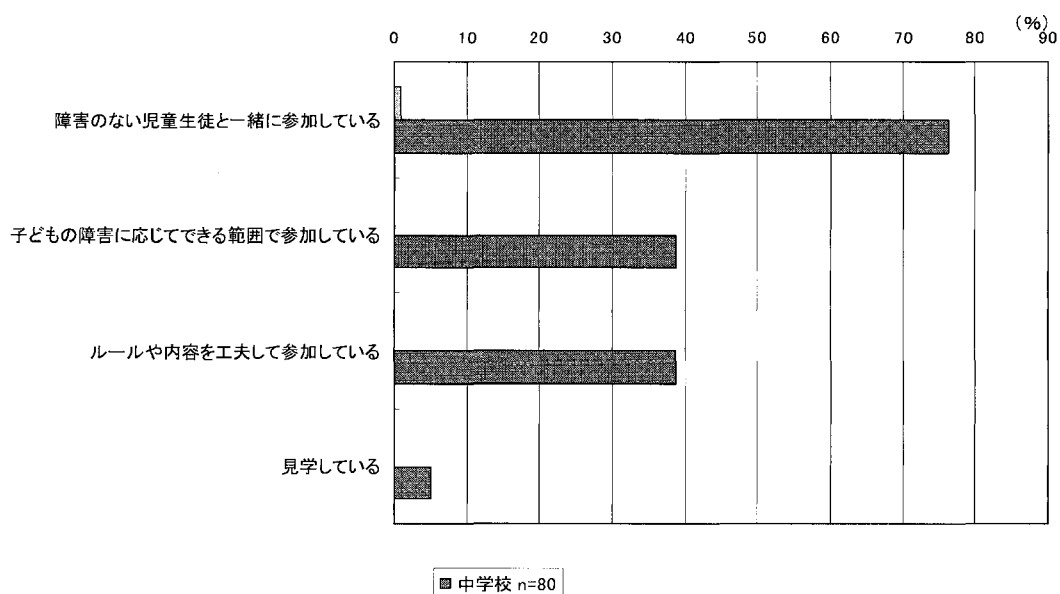


図1 体育祭等への参加状況

引用・参考文献

- Block, M. E. (1995). Development and validation of the children's attitudes toward integrated physical education-revised (CAIPE-R) inventory. *Adapted Physical Activity Quarterly*, 12 (1), 60-77.
- Block, M. E., & Zeman, R. (1996). Including students with disabilities in regular physical education: Effects on nondisabled children. *Adapted Physical Activity Quarterly*, 13 (1), 38-49.
- 長曾我部博, 草野勝彦 (1997) 小学校体育科における交流学習の推進に関する研究, 宮崎大学教育学部附属教育実践研究指導センター研究紀要, Vol. 4, 79-88.
- 長曾我部博, 鶴山匡文, 初木尚子, 草野勝彦 (2002) 体育における「インクルージョン」に対する通常学級児童の態度, 宮崎大学教育文化学部紀要. 芸術・保健体育・家政・技術, Vol. 6, 103-115.
- 長曾我部博, 草野勝彦 (2006) 小学校教員のインクルーシブ体育に対する態度と態度変容に関する研究, 宮崎大学教育文化学部附属教育実践総合センター研究紀要, Vol. 14, 1-11.
- 長曾我部博 (2007) ボール運動, 草野勝彦, 西洋子, 長曾我部博, 岩岡研典, *インクルーシブ体育の創造—共に生きる授業構成の考え方と実践*, pp. 81-87, 市村出版.
- Duchane, K. A., & French, R (1998) Attitudes and grading practices of secondary physical educators in regular education settings, *Adapted Physical Activity Quarterly*, 15(4), 370-380.
- 後藤邦夫監, 筑波大学附属学校保健体育研究会編 (2001) *バリアフリーをめざす体育授業—障害のある子どもと共に学ぶ—*, 杏林書院.
- 伊藤宏, 松本知栄子, 望月信子, 山内英次, 岩田淑子, 櫻井隆, 香野毅 (2006) 静岡大学教育学部附属養護学校小学部の生活単元学習「水遊び」についての研究, 静岡大学教育学部研究報告. 教科教育学篇, Vol. 37, 113-125.
- 草野勝彦, 長曾我部博 (2001) 障害児をインクルージョンした体育の授業と教員の態度, *体育学研究* 46(2), 207-216.
- 七木田敦, 安井友康 (1998) 障害児・者体育におけるインクルージョンの可能性について—カナダの障害児体育の指導プログラムから—, *広島大学学校教育学部紀要*, 1 (20), 121-129.
- 内閣府 (2007) *障害者白書*平成 19 年版.
- 西洋子 (2007) *インクルーシブ体育における教師の意識変容プロセス*, 草野勝彦, 西洋子, 長曾我部博, 岩岡研典 (2007) *インクルーシブ体育の創造—共に生きる授業構成の考え方と実践*, pp. 30-39, 市村出版.
- 大南英明, 吉田昌義編 (2004) *障害のある子どものための体育—個別の指導計画による健康・体力づくり—*, 東洋館出版社.
- Shimomura, M., Hamazaki, M., Nohara, R. and Fujiwara, H. (2004) Effective use of table tennis for patients with chronic ischemic heart disease, *Jpn J Adapted Sport Sci.* 2(1): 38-44.
- 高橋出起子 (2002) 特殊学級担任の指導力の向上を目指す研究のあり方に関する実践的研究—研修の内容と方法に視点を当てて— (第 1 報), *岩手県立総合研究センター研究紀要* Vol. 37, 208-218.
- 竹内 亮, 中島史朗, 波多野義郎, 豊嶋隆子, 佐々木慎, 森千佐子 (2007) 在宅高齢者における筋力向上トレーニング介入が ADL と主観的幸福感に及ぼす影響, *障害者スポーツ科学* Vol. 5(1), 9-17.
- 竹田契一 (2007.9) LD・ADHD・アスペルガー症候群の理解と支援 II, 第 8 回 SEIWA サマーセミナー資料.
- 寺田恭子, 寺田泰人 (2006) 養護学校へのダンス授業導入の試み (その 1), *名古屋短期大学研究紀要*, Vol. 6, 103-115.
- 植木章三 (2007.9) 東北地区の小中学校におけるアダプテッド・スポーツの実施状況について, *日本体育学会第 58 回大会, アダプテッド・スポーツ科学分科会*, 13-7-M202-8, 資料.
- 安井友康 (2007) 小中学校における障害のある児童生徒の体育授業に関する研究—北海道における実態調査から—, *北海道教育大学紀要, 教育科学編*, 58(1), 165-179.